

# 中国の大学図書館における 情報リテラシー教育の今

劉倩秀

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科

第67回日本図書館情報学会研究大会

# 発表内容



研究背景



研究目的



調査方法



調査結果



今後の課題

## 用語定義

- 情報リテラシー (Information literacy, IL)
  - 課題を認識し、その解決のために必要な情報を探索し、入手し、得られた情報を分析・評価、整理・管理し、批判的に検討し、自らの知識を再構造化し、発信する能力。

## 背景

- 中国では1980年代から政策として、大学における情報リテラシー独立科目 (stand-alone credit-based information literacy courses) が普及するよう努めてきた。
- 情報化社会の発展に伴い、カリキュラムは継続的に深化され、内容も拡大され、学生の情報の質を判断する能力を高めるための基本的なコースとなっている。

## 目的

- 教育対象、教育内容、教育手法という点から、中国の大学図書館における独立科目型の情報リテラシー教育の現状と課題を明らかにする。

## IL動向@中国

- 1981年中国教育部《高等学校(大学)図書館工作条例》
  - 大学で文献検索授業を開講すべき
- 1984年《高等教育機関での「文献検索と利用」コースの開設に関する意見》
  - 「条件が整っている大学は必修科目として、整っていない大学は選択科目や講習会」
- 1985年と1986年 追加の文書
  - 文献検索授業に関する詳しい規定
    - 文献検索授業の性質とミッション、教育内容と要求、教育カリキュラム、授業時間数、授業の対象
- 1992年《文献検索コースの基本要求》
  - 文献検索および利用コースは、単科大学および総合大学で一般的なコースとなった

# IL動向@中国

- 北京地区大学情報リテラシー能力指標体系（2005, 北京地区大学IL教育研究会）



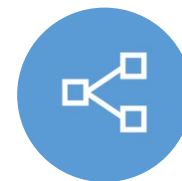
現代社会における  
情報および情報リ  
テラシーの役割と  
価値を理解する



必要な情報の性質  
と範囲を決定する



必要な情報を効率  
的に獲得する



情報とその情報源を正しく  
評価し、それらを自身  
の知識システムに統合す  
る



情報を効果的に管  
理、整理、および  
交換する能力



特定のタスクを達  
成するための情報  
の効果的な使用



関連する法的、倫理的、  
社会経済的問題を理解し、  
情報を合法的に使用する

## IL動向@中国

- 2018年3月《大学における情報リテラシー教育のさらなる強化に関する意見》
  - 情報リテラシー教育の内容、形式、施設、評価、実施など
  - 情報リテラシー教育を人材育成プログラムに統合する
- 情報リテラシー教育の普及と発展を促進するために、効果的な政策基盤と規範的なガイドラインを提供



# 方法

## 情報リテラシー教育の現状を明らかにする

- ウェブ調査
- 211プロジェクト\*の大学120校を対象

## 独立科目型のIL教育の現状と課題を明らかにする

- 63大学のシラバス分析
- 10年以上の情報リテラシー教育経験を持つ図書館員20名を対象にインタビュー調査

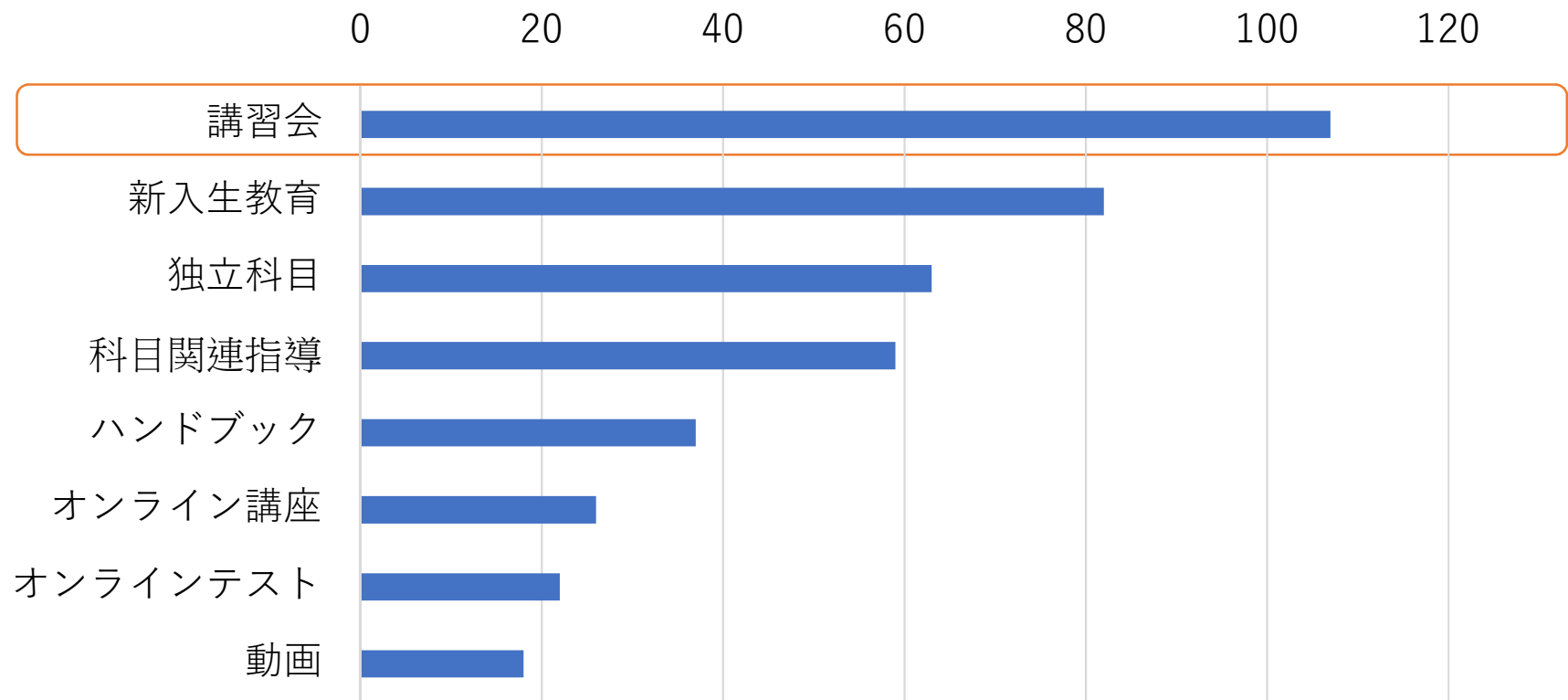
\*1995年に定めたもので、21世紀に向けて中国の100の大学に重点的に投資していくとしたもの。「国家重点大学」とも呼ばれる。

---

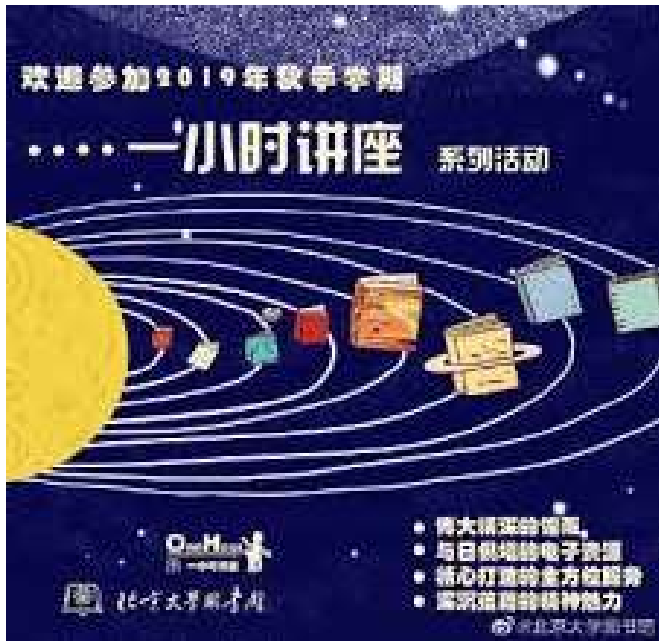
# 調查結果

# ウェブ調査

図1. 情報リテラシー教育の形式



n=115



一時間講習会  
 @PKU

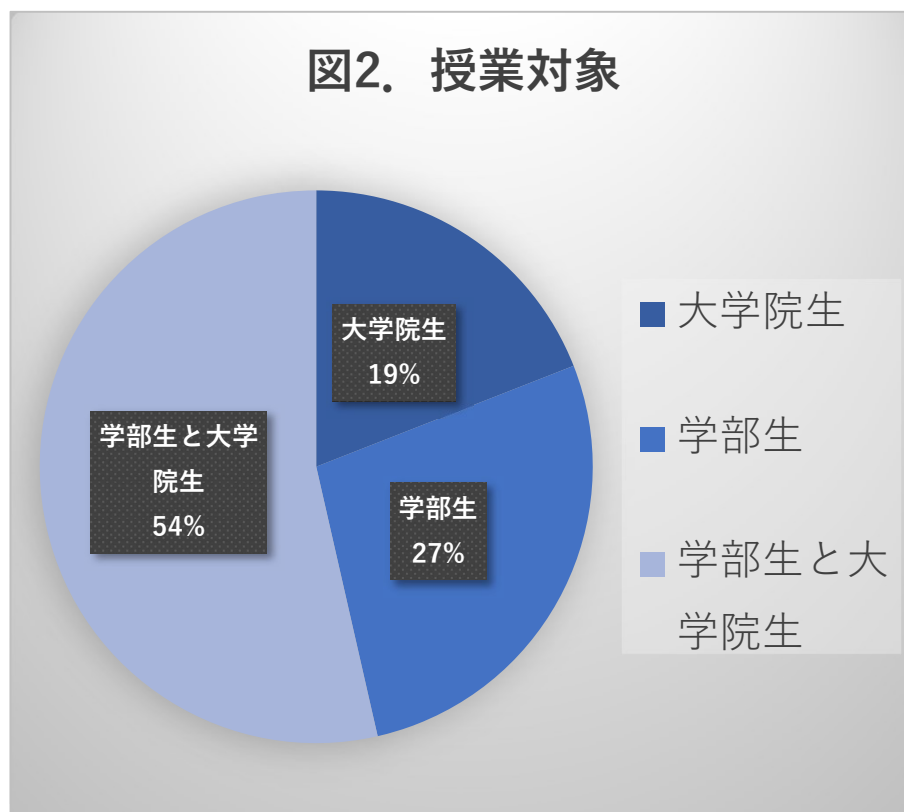
## 新入生教育

- 新入生教育のための専用ウェブサイト
- 同じ専攻の先輩が案内してくれる図書館ツアー
- 3D図書館見学
- 図書館オンラインゲーム
- 「微电影」



# シラバス調査

- 63大学 計84コースのシラバス



- 学年にこだわらない授業設定
- 比較的学年の高い学生を対象



## シラバス調査

- 1990年代以降、中国の高等教育カリキュラム改革が進められ、従来の狭い専門教育偏重から総合的な能力の育成と深い教養教育が重視されるようになった（神崎, 2017）。
- 図書館も大学の使命に沿って、組織改革やサービス改革を行っている。
- 独立情報リテラシー科目は「通識教育」（日本では教養教育）として位置づけられ、図書館の教育機能が強調されてきた。



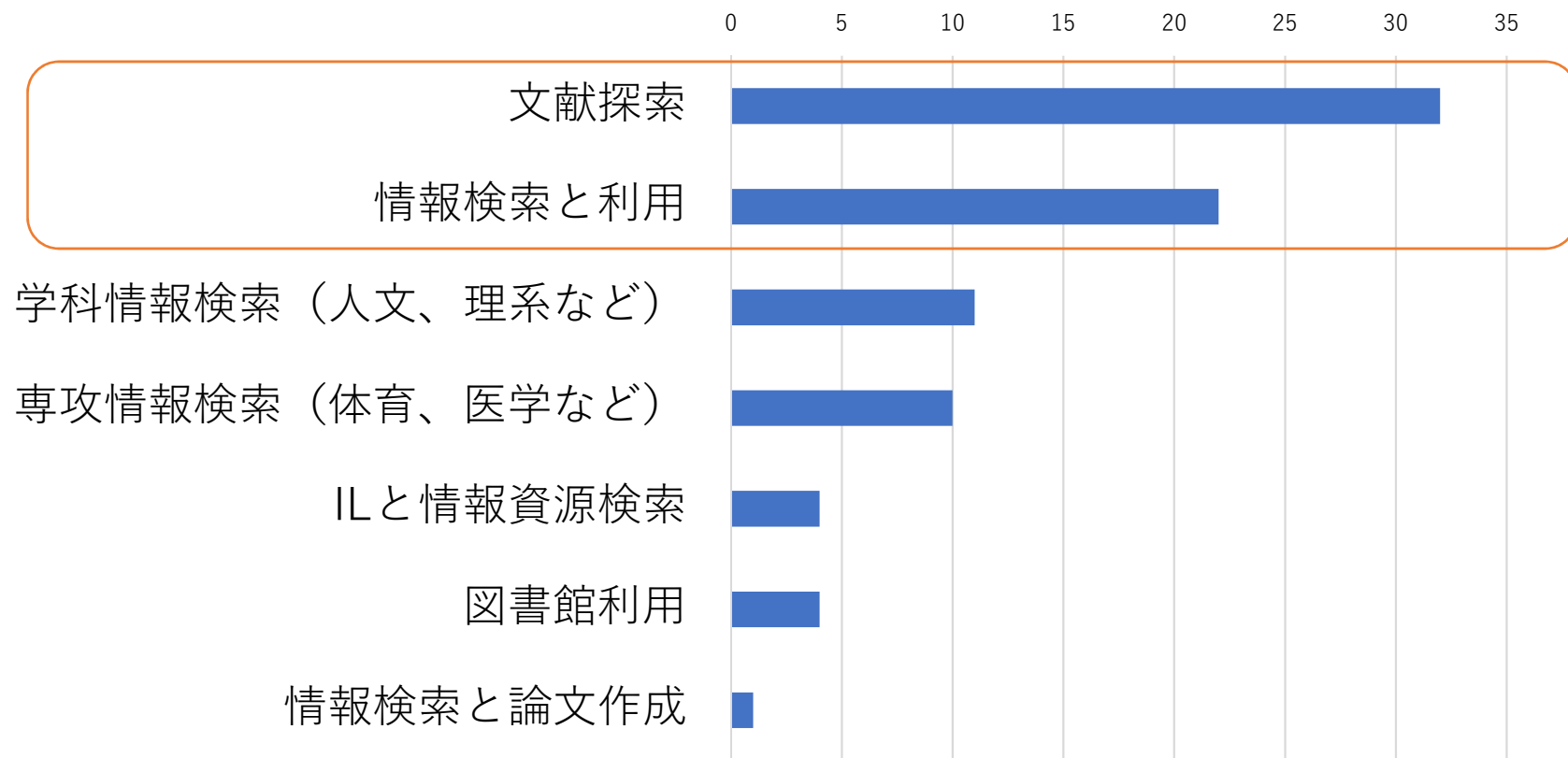
## シラバス調査

- 必修・選択
  - 74コースは「選択科目」、通識教育
  - 10コースが「必修科目」、専攻別や学科別
- 単位数・時間数
  - 32～36時間で2単位のコースが一番多く、71科目あった
  - 12科目が1単位
  - 最も多い単位数：内モンゴル大学、48時間で3単位
- 授業評価の手法
  - 出席、課題、試験、レポート



# シラバス調査

図3. 情報リテラシー教育の科目名



n=84

# シラバス調査



文献検索を中心



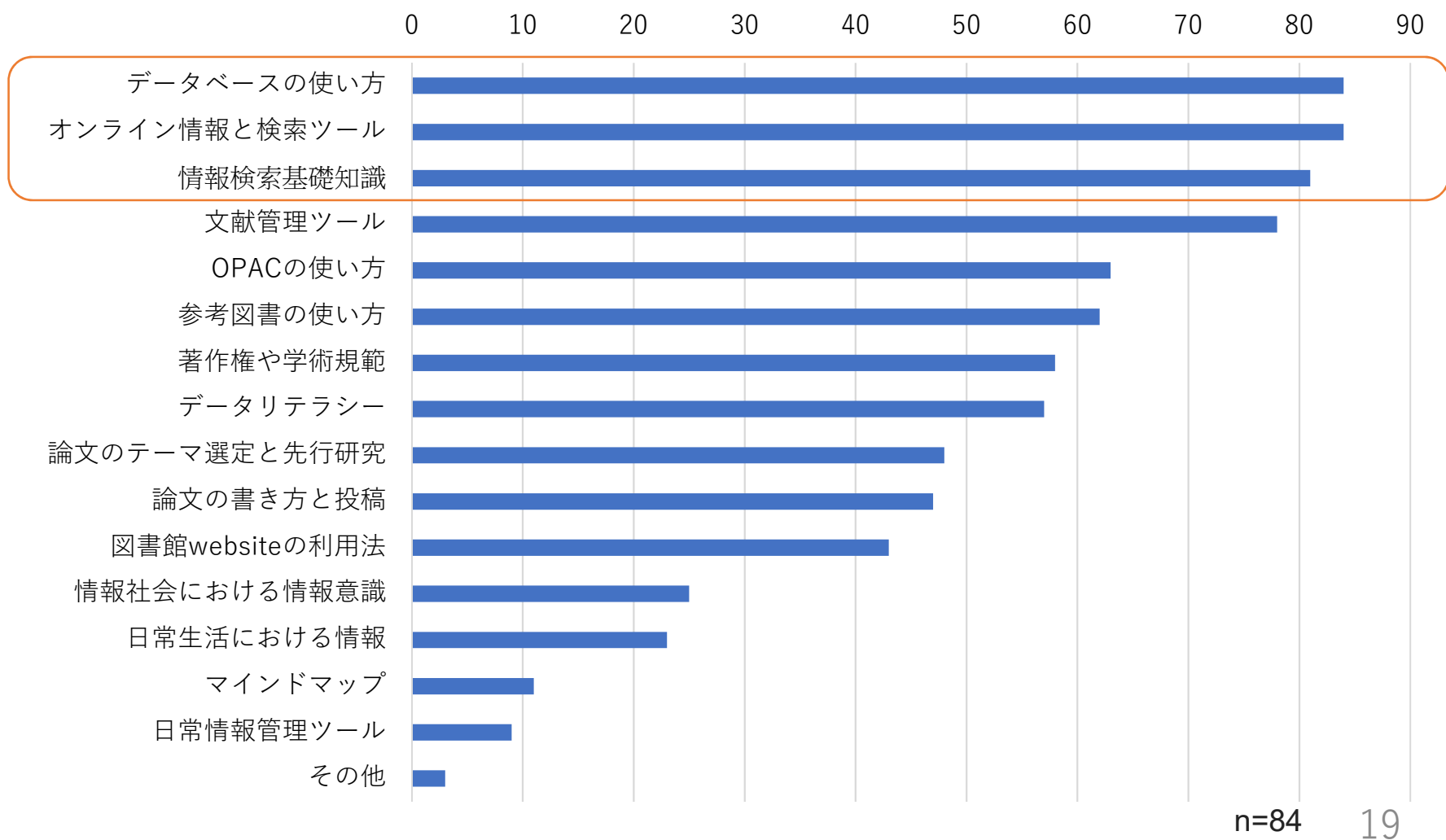
研究プロセスを  
中心



日常生活と勉学生活に  
おけるILを中心

# シラバス調査

図4. 授業トピック集計



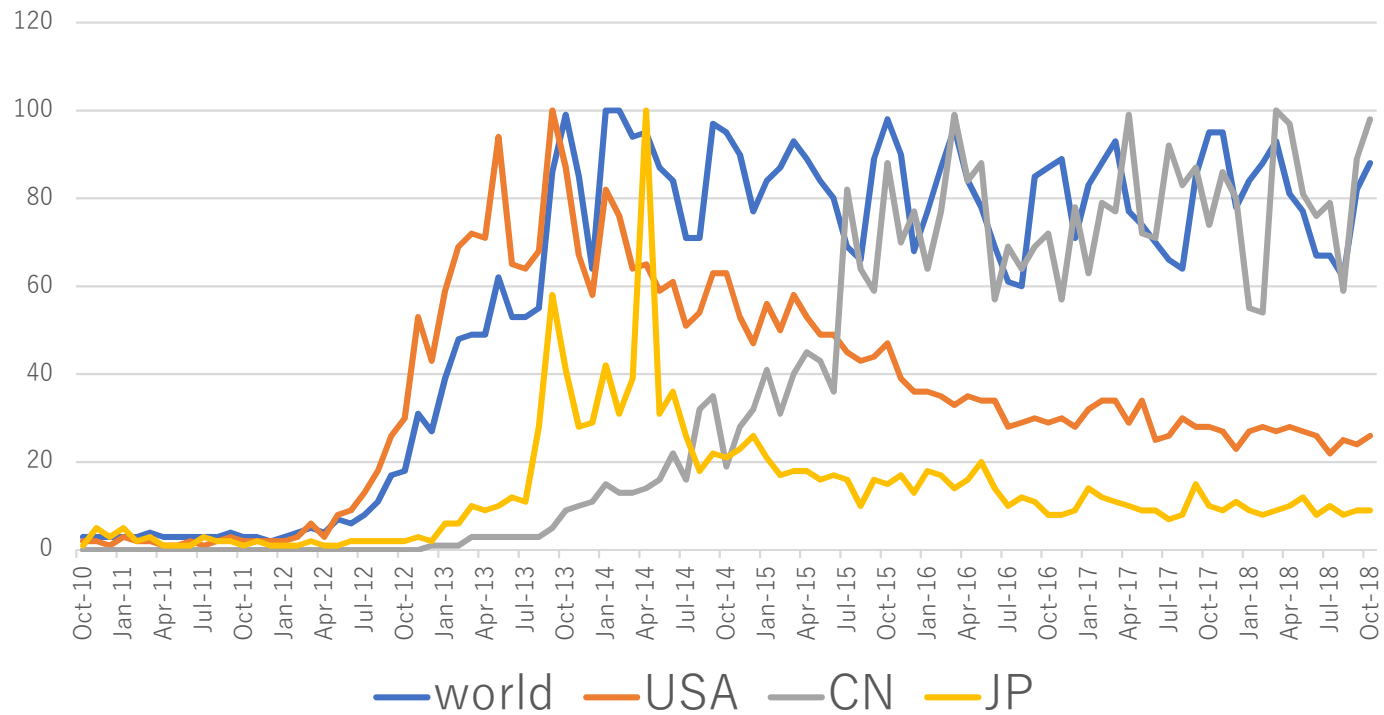
# シラバス調査

- 教育手法
  - 講義と演習
  - グループワークやディスカッションなど
  - PBL教授法や反転授業
  - MOOCなどの新メディア



# MOOC on Google Trends

MOOC on Google Trends (from 2010 -)





# MOOC Courses of Information Literacy

---

# インタビュー調査



情報リテラシー教育に  
おける変化



情報リテラシー教育に  
おける課題



情報リテラシー教育に  
おける展望

## インタビュー 調査

- 情報リテラシー教育における変化
  - 内容の変化
    - 図書館利用や図書館の情報を出発点
    - 研究活動のresearch circle
    - 利用者のニーズに合わせたプログラムデザイン
  - 授業形式や媒体の変化
    - オンラインテストなど多様なメディア
    - 学習習慣に合わせた形式を取り組む
    - 学生の関心を高める

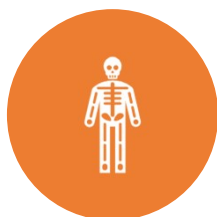


## インタビュー 調査

- 情報リテラシー教育における課題
  - 情報リテラシーに関わる概念の複雑さ
  - 理論的基盤の欠如
    - 大学ごとに教科書を編集する
    - 国内外の大学を参考に授業を設計する
  - 教材が数多く、選びにくい

# インタビュー調査

- 情報リテラシー教育における課題



何を教えるのか



ILの核心となる批判的  
思考はどのように  
教えるのか



教育成果の評価



学生への理解

## インタビュー 調査

- 情報リテラシー教育における展望
  - 学科サービスとILが連動する
  - オンラインコースの開発と単位化制
  - 情報リテラシー基準の策定
  - IL教育事例データベースの構築

# まとめ



## 教育内容

文献検索を中心

日常生活と勉学生活

におけるILを中心

研究プロセスを中心



## 教育対象

学年にこだわらない

授業設定

比較的学年の高い学生

を対象



## 教育手法

反転授業

MOOC

新メディア



## 今後の課題

- IL概念の受容からIL教育の展開を中心に、日本と比較する